

第 185 号 発行日 平成 24 年 5 月 23 日

合格通信

今
月
の
名
言

人生を良いものとするのも悪いものとするのも すべて個人が決めることである。
人の強さも弱さも、純粹さも汚れも、他の誰のものでもなく彼自身のものである。
ジェームス・アレン -イギリス哲学者-

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法③



勉強以外の道を見つけてあげることも親の役割

勉強という行為の最小単位を示してあげる。一步一步実行するとこんなに楽しいことが待っているということを教えてあげる。この二つのことを、親子の会話の中できちんと伝えることによって、勉強が性分に合わない子でもかなりの確率で勉強をするようになります。

けれどもやはり、勉強という行為の最小単位を、お子さんの現状と照らし合わせてみるということは、つらい作業になるかもしれません。「あーやっぱりうちの子には難しいかもなあ」という現実に直面して、かえって気が重くなることもあります。

それでもやはり、勇気を出してお子さんと一緒にその現実を見てください。まずしっかり見て、そしてお子さんにとって不得意なものが、得意になる可能性があるかどうかを真剣に検討してください。

その結果、どうしても乗り越えられない壁があって、お子さんが勉強を得意になることはほぼ不可能だという現実を見せつけられて、さらに落ち込むことだってあるかもしれません。

けれども、ここで気持ちを強く持って、その厳しい現実さえも、お子さんの成長のためにプラスに変えていかななくてはなりません。お子さんの現状が分かったのですから、大きく前進したのだと思ってください。そうすると、今まで見えていなかった希望が、別の方向に明るく見え始めます。たとえば…一定の時間正しい姿勢で座ることが苦手なお子さんは、常に活動して、物事を体感しながら学ぶのが得意かもしれません。

読んで考える、辞書を調べる、参考書を調べる、という行為が大嫌いなお子さんは、人に会い、会話を交わして物事を学ぶのが得意なのかもしれません。

紙に書いて覚える、覚えたことをテストすることが大嫌いなお子さんは、人や社会に対してまずは仕掛けてみるという積極的な行動が得意なのかもしれません。

子どもにとって、いえ、子どもに限らず誰にとってもそうですが、階段の一步を上がるような、誰でもできることなのにどうしても自分にはできない…それは、その人にとって本当につらい、絶対にやりたくないことなのです。それにこだわりを持ち、無理にやらせることは、その後の人格形成にかかわる重大問題にもなりかねません。

だから、お子さんの性分に合わないこと、頑張ってもお子さんのためにならないことは、その事実を喜んで受け入れたらいいのだと思います。それは、けっしてあきらめることではなく、敗北と考えるものでもなく、お子さんの持つ本当の素質や能力を生かせるような別の分野が早く見つかることになるのですから。

・・・次号に続く。